

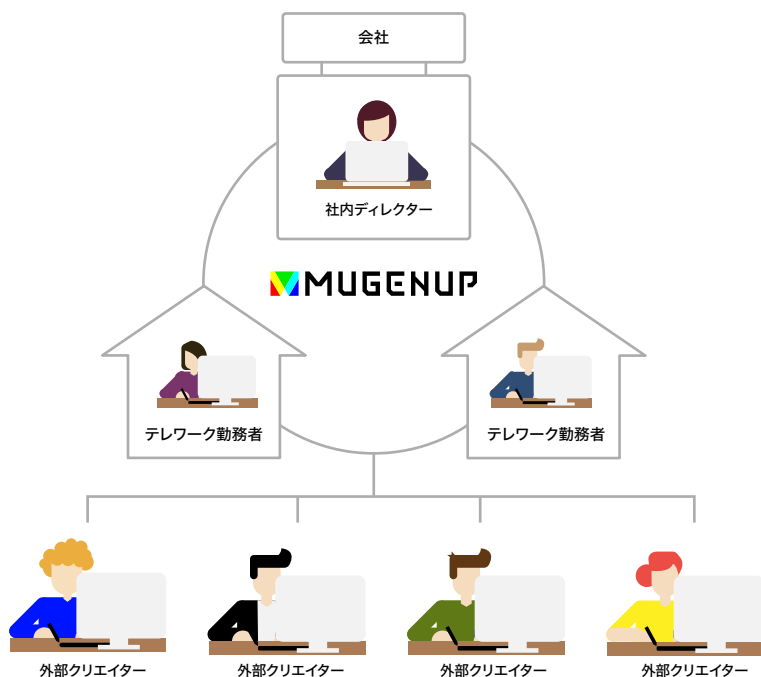
700人が完全リモートワーク

MUGENUPのクリエイティブ制作のコツ

はじめに

MUGENUP は、イラストや 3DCG などのクリエイティブ制作を中核事業とし、クラウド型プロジェクト管理ツール「Save Point」の開発とサービス、人材派遣や転職支援など、クリエイティブにかかわる様々な事業を展開しています。

2012 年より積極的にテレワークを導入し、クリエイターに「新しい働き方」を提案。厚生労働省より「輝くテレワーク賞」を受賞、総務省からは「テレワーク先駆者百選」に選出されるなど、テレワークへの取り組みを高く評価されてきました。



MUGENUP オフィス勤務：110人

MUGENUP フルタイム在宅勤務：90人

月間協働クリエイター：500人

クラウド登録外部クリエイター：40,000人以上

MUGENUPでは、新型コロナウイルスへの感染対策として、2月18日より全社員の在宅勤務を実施し、すでに2カ月以上が経過しました。

その間も、業務に支障をきたすことなく、月間2,000点、約10,000工程を管理しクリエイティブを制作。全社員在宅勤務への移行が成功しました。

そこでテレワークの導入にお悩みの皆様の一助になればと、当社で「700人のテレワークによるクリエイティブ制作」が実現したコツについて、本資料によってご紹介させていただきます

MUGENUPの考える、クリエイティブ制作におけるテレワークのコツ

- ・ オフィスでも在宅勤務でも変わらない環境の構築。
- ・ テレワークを前提とした業務フローの構築。
- ・ 挨拶から人事評価まで、リモートでのコミュニケーション文化の醸成。

クリエイティブ制作における「テレワークの業務環境」(1)

課題：在宅勤務でも、オフィスと同じことができる、同じ情報にアクセスできる。

■コツ：PC 機材やオフィスツールなどを整備する。

オフィスを離れて在宅勤務を遂行するためには、PC などの機材や、クリエイティブ制作のための様々なツール、業務を進めるためのグループウェアやオフィスソフトなどを、社員それぞれの自宅に環境を整備することが必要。

【MUGENUPの対応】

社員それぞれの状況に合わせて、自宅へのPC 機材の発送や、モバイル wifi のレンタル、各種ツールのアカウント貸与などで対応しオフィスと同じような機材やツールで業務ができるように整備しました。

クリエイティブ制作における「テレワークの業務環境」(2)

課題：在宅勤務でも、オフィスと同じことができる、同じ情報にアクセスできる。

■コツ：情報やデータへのアクセス環境を整備する。

進捗管理のデータや制作に必要な素材、過去のアーカイブなどの情報資産に、オフィスと同じようにアクセスできないと業務効率が著しく低下するため、セキュリティに十分配慮しつつ、アクセス環境の整備が必要。

【MUGENUPの対応】

自社で開発したクラウド型プロジェクト管理ツールである「Save Point」を活用、過去の資産や、制作の進捗、コミュニケーションなど、全てツール上に保存されているため、オフィスと同じ環境のまま在宅勤務に移行する事ができました。

クリエイティブ制作における「テレワークの業務フロー」(1)

課題：実際に集まって仕事を進めるこれまでの常識を改め、ツールで代替しデジタル化する。

■コツ：リアルで顔を合わせる「常識」にとらわれない。

オフィスに社員が集まることを大前提としていたこれまでの常識（稟議書の回覧や契約書の押印、同じ場所に集まる朝礼や会議など）を見直し、ツールで代替することでデジタル化を推し進める。

【MUGENUPの対応】

業務上のコミュニケーションはチャットツール（チャットワーク）を全面的に導入し、全社会議も映像配信に対応、クリエイターの様々な情報もネット上で共有しています。さらに紙の稟議書などの制度は採用せず、契約のデジタル化も推進しています。

クリエイティブ制作における「テレワークの業務フロー」(2)

課題：実際に集まって仕事を進めるこれまでの常識を改め、ツールで代替しデジタル化する。

■コツ：コミュニケーション不足による抜け漏れに備え、業務連絡をオートメーション化する。

テレワークや在宅勤務は業務の効率化を促進すると同時に、どうしてもコミュニケーション不足になりがちのため、ツール間の連携を活用して業務連絡をオートメーション化し、抜け漏れを防ぐことも重要。

【MUGENUPの対応】

クラウド型グループウェア (G suite) の導入によって、スケジュールやメール、オフィスツールが連携、さらにクラウド型プロジェクト管理ツール (Save Point) によって、事業部と営業部、バックオフィスなど複数部署の連携が実現しています。

クリエイティブ制作における「テレワークのコミュニケーション文化」(1)

課題：コミュニケーション不足を防ぎ、社員のエンゲージメントを高める。

■コツ：コミュニケーションや、会社の状況、他部署の情報などを、積極的に社内で共有する。

在宅勤務では社員が孤立しやすく、モチベーションが低下しやすい。そこでコミュニケーションのオープン化や、他部署の情報を積極的に社内で共有することによって、会社へのエンゲージメントを向上させる。

【MUGENUPの対応】

チャットツール(チャットワーク)やクラウド型プロジェクト管理ツール(Save Point)によってコミュニケーションをオープン化し、誰が何をやっているかを可視化しています。また、情報共有ツール(docbase)によって会社の情報を常に発信しています。

クリエイティブ制作における「テレワークのコミュニケーション文化」(2)


課題：コミュニケーション不足を防ぎ、社員のエンゲージメントを高める。

■コツ：社員が楽しんで参加できるコミュニケーションを社内にしかける。

特にテキストコミュニケーションが軸になる在宅勤務では、一方的な情報発信は読み流されやすい。そこで雑談やランチ、ゲーム、パーティ、イベントなど、社員が興味をもって自発的に参加できる企画を仕掛けていく。

【MUGENUPの対応】

情報共有ツールやチャットツール、映像配信ツールを活用して、社員のスキルアップに繋がるオンライン企画や、社員の健康をケアするオンラインヨガ教室、社内パーティの映像配信、自分が好きな画像やネタの投稿企画など毎月のように実施しています。



**テレワークによる
クリエイティブ制作を
支えるツール**

業務プラットフォーム



業務コミュニケーション



情報共有



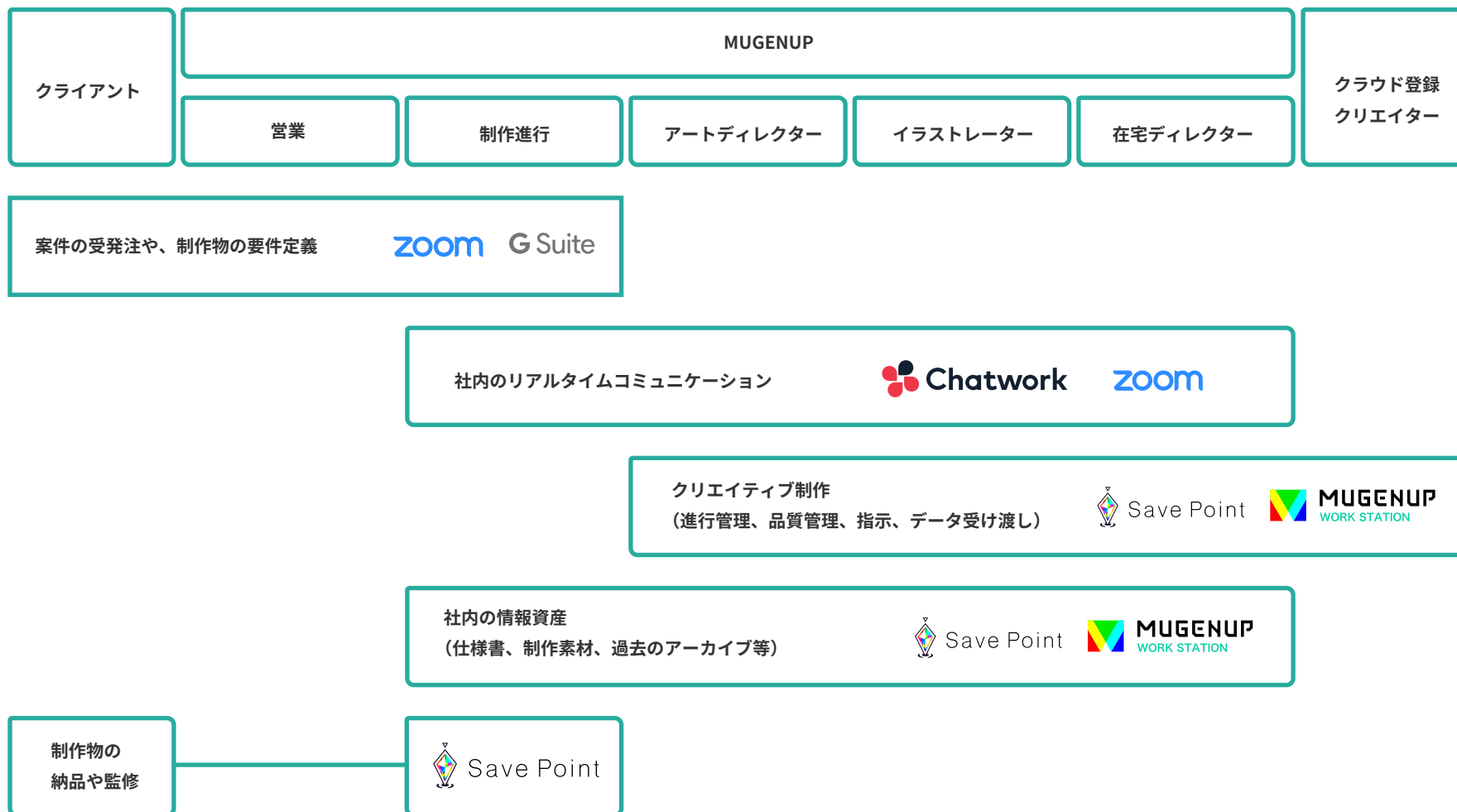
勤怠管理



クラウド型グループウェア



クリエイティブ制作における、それぞれのツールの活躍シーン



リアルタイムコミュニケーションは、チャットワークと zoom が主流。

制作進行や監修、アーカイブ管理、納品などは「Save Point」や社内システムを活用しています。

(この他、様々なツールを活用することで、勤怠管理や契約業務、経理財務などでもテレワークを実現しています)



Save Point

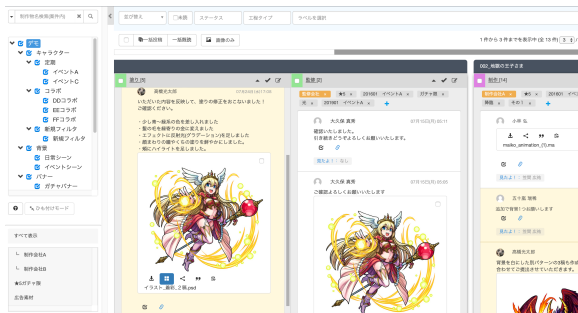
MUGENUPのテレワークで特に重要なのが「Save Point」です。

豊富なテレワークの実績をもとに、MUGENUPが自社で開発・サービスしているクラウド型プロジェクト管理ツールで、制作データの納品や監修、進行管理など、時間や場所にとらわれないテレワークを実現しています。

クラウド型プロジェクト管理ツール「Save Point」の特徴

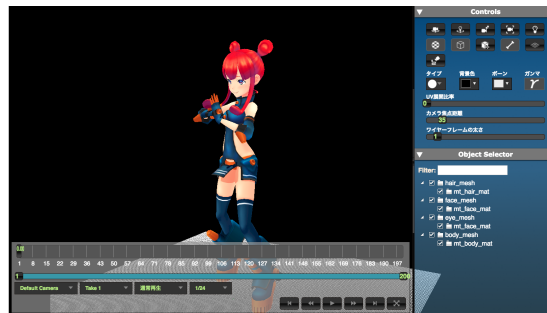
- 発注から納品まで、クリエイティブ制作のコミュニケーションを全て統一。
- スケジュール管理や制作物の進捗管理など、進行管理を一元的に管理。
- web上でプレビューできるため、ダウンロードの手間や専用クリエイティブツールが不要。
- 過去の制作物も保存、ラベル管理によってデータベース的な活用も。
- 制作データと同時に監修やフィードバックなどのコミュニケーションも全て保存、ナレッジを蓄積。

Save Point の主な機能



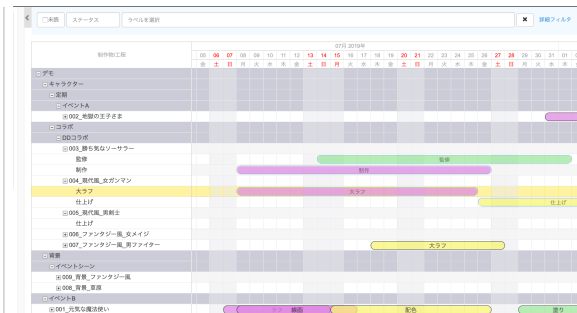
コミュニケーションが一覧できるスレッドビュー

制作物ごとのタイムラインをひとつの画面に集約し、大量のコミュニケーションを並行して効率的に実現する「Save Point」のメイン画面のひとつです。



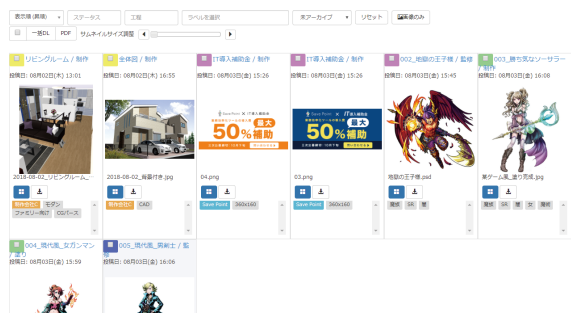
3Dビューワー

3D データを閲覧できる環境や専用のクリエイティブツールがなくても、簡単に 3D データの内容を確認できます。



ガントチャートで進捗を確認

プロジェクト全体の進捗状況を俯瞰して確認できる機能です。詳細を閲覧する時には該当のスレッドにこの画面からワンクリックで遷移できます。



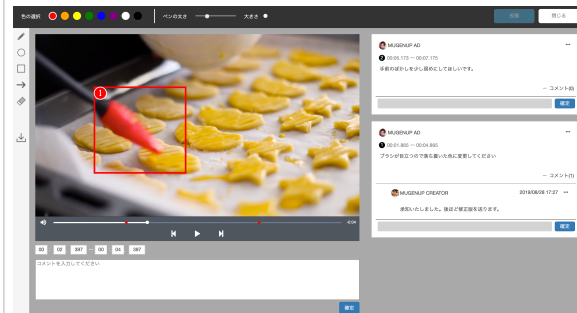
お気に入り登録した画像を一覧するサムネイル

登録した画像だけをピックアップし、サムネイルで表示します。ラベル機能と組み合わせて重要な制作物を一覧にしたり、過去制作物と制作中のデータを見比べたりすることが可能です。



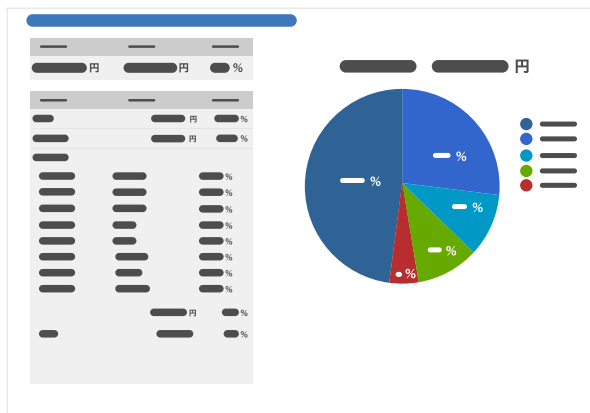
ブラウザ上でフィードバック

「Save Point」に投稿された制作物に、テキストなどフィードバックを追記できる機能です。制作物のプレビューから簡単なフィードバックまで「Save Point」上で完結できます。



動画に対しても、ブラウザ上でフィードバック

動画をプレビューしながら、気になった箇所にコメントや修正指示を手書きできます。テレビ番組のテロップのように再生される動画の上にフィードバックを表示できます。



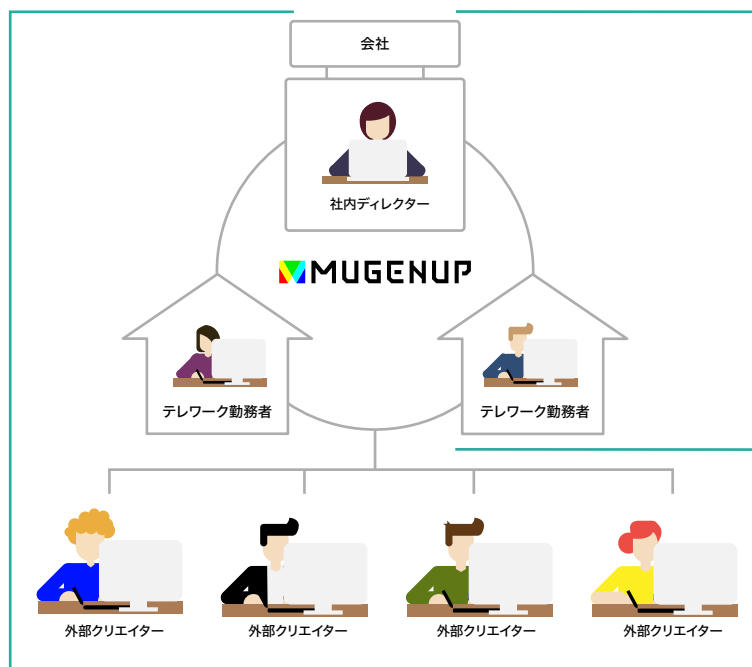
MUGENUP の社内用業務プラットフォームです。

業務内容や制作進行の管理、情報資産のアーカイブ、プロジェクト収支や社員ごとの売り上げ管理、他部署との連携などを自社のシステムで一括化し、テレワークにおける業務の効率化を図っています。

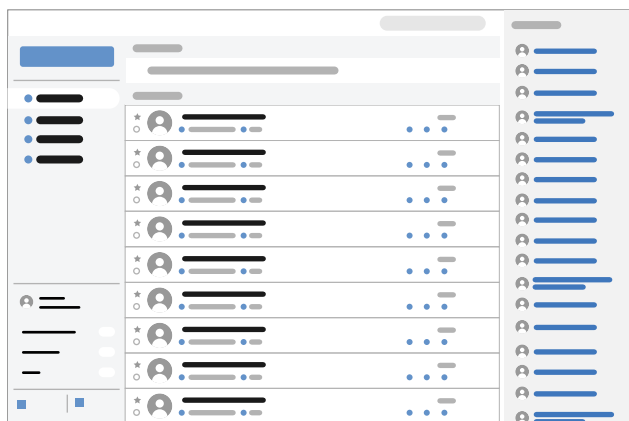


Save Point

クライアントや外部のクラウドクリエイターなど、MUGENUPと社外関係者をつないで業務を行う際は、「Save Point」を活用し、統一された業務環境を構築。



MUGENUP 社内においては、社内用業務プラットフォームとして「WORKSTATION」を活用し、部署間の連携や効率化を実現。



DocBase

社内の情報共有ツールとして「DocBase」を使用。

MUGENUP の社員であれば、誰もが記事を書くことができ、会議の議事録や、社内イベントの開催レポート、部署の業務状況、社員それぞれのノウハウの共有など MUGENUP 全体で活用しています。

主な活用事例

①スウォッチにカスタムフォルダがつけられるようになった！

これ、昔はフォルダを作るためのスクリプトが作られてたくらい皆が望んでいた機能で私は画像のようにFBという赤入れ用のフォルダを作っています。色を選んでフォルダにドラッグしても追加できます

人事よくある質問⑧保育園等へ提出する在籍（勤務・就労）証明書について

◆在籍（勤務・就労）証明書とは

- 申請者が就労している場合に、雇用者や事業主が申請者の就労を証明するもの

※市区町村によって形式が異なります。

見本 - 新卒のもの

見本 (予定) 証明書.pdf

◆必要になる人・場面

- 勤務証明は様々な場面で必要とされる場合がある

具体的に

- 保育園の入園申込など子育て支援の申請

その他

- 賃貸住宅の契約締結
- 借金などの審査
- 一級私立の学校、中学校、高校の入学試験申請
- 専門性の高い職業に就く際、業務経験を証明するため

はじめに

新型コロナウイルス対策のため、2月18日（火）より、全従業員がテレワークによる在宅勤務推奨となり、3月31日（火）より、原則として全従業員が在宅勤務となりました！

そのため、ずっと部屋にこもってる、**【運動不足】** になりますよね？
不安やいららなど、**【ストレス】** もたまってきますよね？！

そこで！
毎日の心身ケアを目的に**【リモート配信によるヨガ教室】** を開催しました！

【チームリーダー紹介】

はじめに

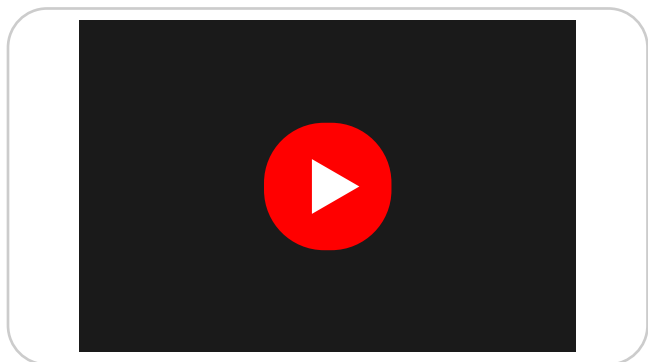
- 本日のデジタルクリエイティブ事業部の定例研修において、チームを創出する新しい組織制度が発表されました。
- その新しいチームリーダーの皆さま、皆様にご紹介するエントリーになります。
- 本エントリーは各チームリーダーにインタビューさせていただいて、とりまとめました。

業務ノウハウの共有

多部署間の業務連絡

社内イベントのレポート

社内インタビュー

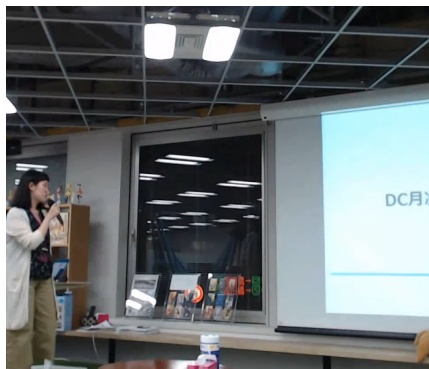


Youtube

映像によるコミュニケーションとして「Youtube」を使用。

事業部全体の月次ミーティングの配信や社内パーティの映像配信といった情報共有に活用している他、MUGENUP 代表からフルタイム在宅勤務者への日頃の感謝といった社内広報、オンラインのヨガ教室という社員の心身ケアなど多岐にわたって活用しています。

主な活用事例



社内ミーティングの配信



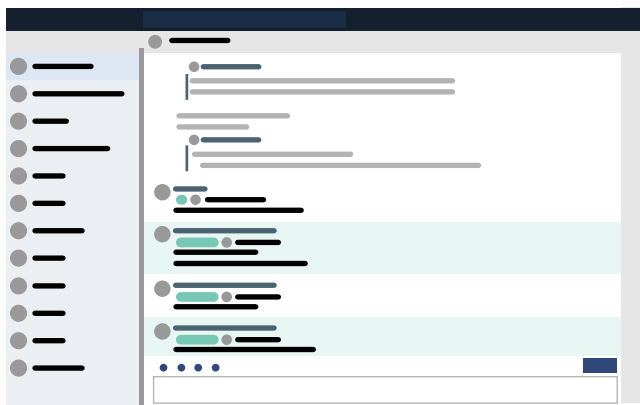
社内イベントを在宅勤務者と共有



映像配信によるクロッキー会の開催



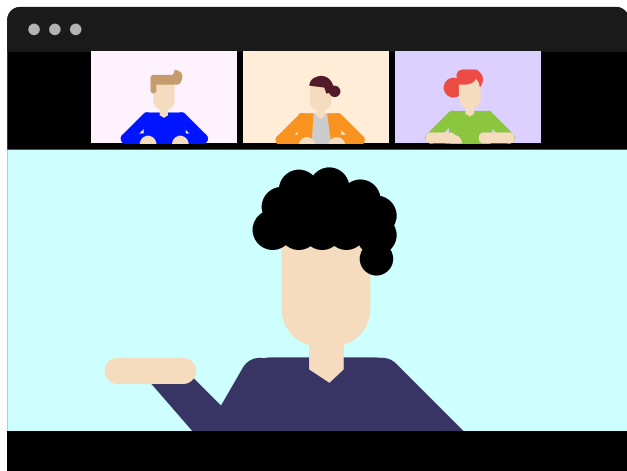
オンラインヨガ教室の開催



Chatwork

チャットコミュニケーションツール「チャットワーク」を使用。

日常のコミュニケーションはもちろん、業務管理にも使われている他、始業時と終業時には在宅勤務者とオフィス勤務者とはチャット上で挨拶をかわすなど、テレワークにおけるコミュニケーションの中心として活用しています。



zoom

オンラインによる通話コミュニケーションでは「zoom」を使用。

業務上の会議はもちろん、朝会・夕会など日々のコミュニケーションで頻りに利用。さらに多人数が同時に接続でき、バーチャル背景といった機能もあることから、「zoom ランチ会」「zoom 飲み会」など業務外コミュニケーションにも活用しています。

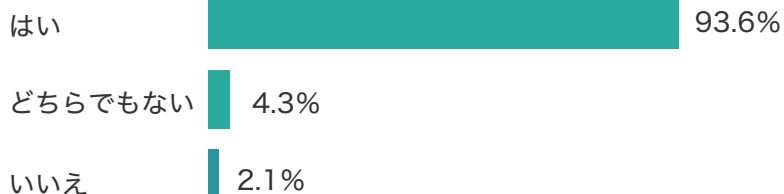


【参考】

全社員テレワーク

2カ月やってみて見えてきた課題

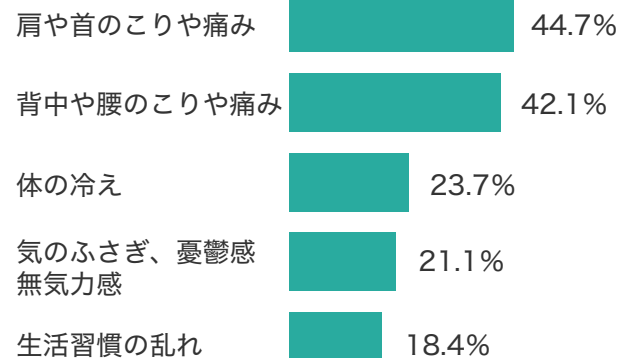
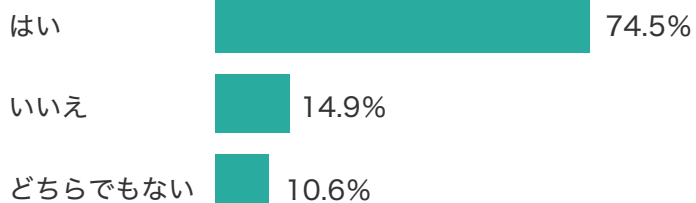
在宅でメリットを感じましたか？



在宅勤務を実施してみて、「メリットを感じる」という回答は、アンケートの93.6%にのびりました。

メリットとして最も多くのコメントを集めていたのは、「通勤時間が無くなったこと」で48.9%にのびりました。次いで「通勤によるストレスが無くなったこと」が15.9%。合計すると64.8%が「通勤」に関連するものとなります。

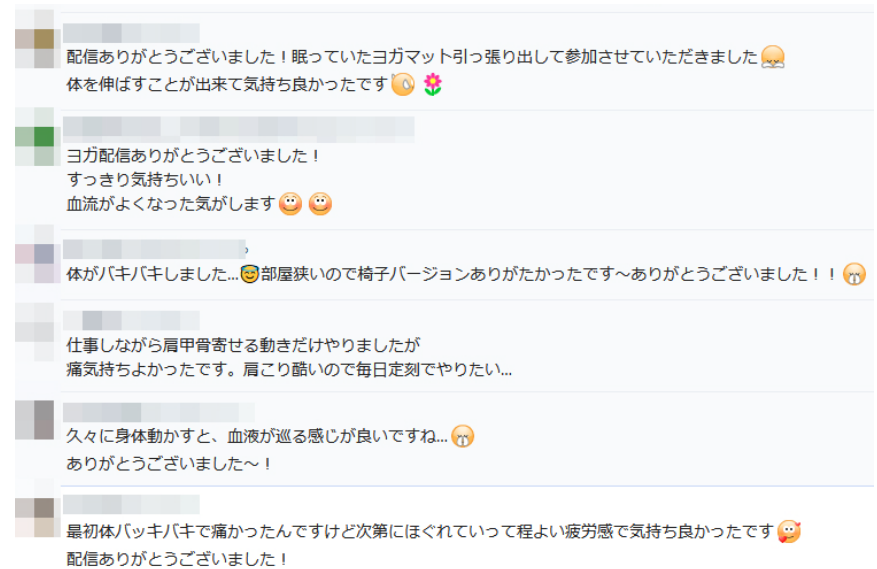
在宅でデメリットを感じましたか？



一方で、社員の74.5%が在宅勤務に対して「デメリットを感じる」という結果も出ました。

デメリットを感じるポイントは1位が「運動不足」で27.1%、2位が「コミュニケーション」で22.9%となっています。

課題への工夫：オンラインヨガ



- ・在宅勤務のデメリットで最も大きかったのは「運動不足」(27.1%)
- ・在宅勤務ならではの課題を解決する取り組みとして、MUGENUPではオンラインヨガ教室を開催しました。
- ・結果は、「参加して良かった」「次も参加したい」が97.4%、
「参加して運動不足に効果があった」が76.3%など、大好評となりました。
- ・この評判をうけ、MUGENUPでは第二回、第三回のオンラインの映像配信による運動不足企画に取り組んでいます。